

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率 月次指標の早期推計：7月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: contact@apir.or.jp

ポイント

● 8月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

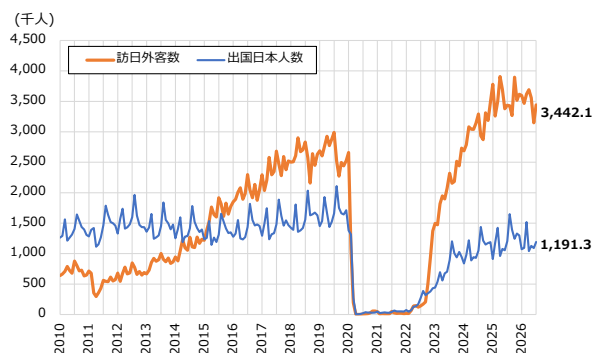
▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、7 月の訪日外客総数(推計値)は 344 万 2,100 人であった。前年同月比 +0.1%、小幅ながら 4 カ月ぶりにプラスに転じた。中国人客の減少が続いているが、夏季休暇の開始もあり、欧米や台湾、韓国などの東アジアが訪日外客全体を押し上げた。また、同月の出国日本人数は 119 万 1,300 人、同-1.2%と 5 カ月ぶりのマイナスとなった。なお、2019 年同月比では-28.2%となり、アウトバウンド需要は依然低迷している。

▶ 訪日外客数のトップ 5 を国・地域別にみると(図 2 及び表 4)、7 月は韓国が 89 万 4,700 人(前年同月比+31.9%)と最多を記録した。次いで台湾が 76 万 3,800 人(同+26.4%)、中国が 42 万 8,200 人(同-56.1%)、米国が 28 万 6,200 人(同+3.3%)、香港が 27 万 2,500 人(同+54.8%)と続く。日中関係悪化の影響が続いており、中国人客は 8 カ月連続で大幅減少した。なお、台湾人客は単月過去最高値を更新した。

▶ 目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(表 5)、5 月は 356 万 256 人となった。前年同月比-3.6%、2 カ月連続のマイナス(前月：同-5.5%)。うち、観光客は 324 万 5,723 人で、伸びは同-3.6%と 2 カ月連続のマイナス(前月：同-6.7%)。その他客は 21 万 3,562 人、商用客は 10 万 971 人であった。伸びをみれば、その他客は同+0.7%と、小幅ながら 3 カ月連続のプラス。一方、商用客は同-10.6%と、4 カ月連続のマイナスとなっており、低調な動きとなっている。この一因として中国人客の減少が影響しており、観光目的のみならず商用目的においても悪影響が生じている。

▶ 7 月 28 日に発生した「令和 8 年熊本地震」の影響は、国内観光需要のみならずインバウンド需要に暗い影を落としている。このため政府は、10 月より観光需要の早期回復を目指し、「九州ふっこう応援割」を九州各県へ展開する予定である。今月号のレポートではその内容を取り上げる。本事業では、宿泊を伴う旅行に対して一定の条件の下、表 1 で示される割引率が適用される予定である。1) 1 泊の宿泊旅行のみならず、2) 交通付宿泊旅行商品(2 泊以上)や 3) 周遊型旅行商品(宿泊地が 2 県以上)も対象を広げた点が特徴的である。こうした取り組みにより九州域内の広域観光が促進されれば、落ち込んだ観光需要の回復に一定程度寄与する。加えて、当該地域のインフラの復旧状況の周知・確認が重要となろう。

図 1 訪日外客数及び出国日本人数の推移

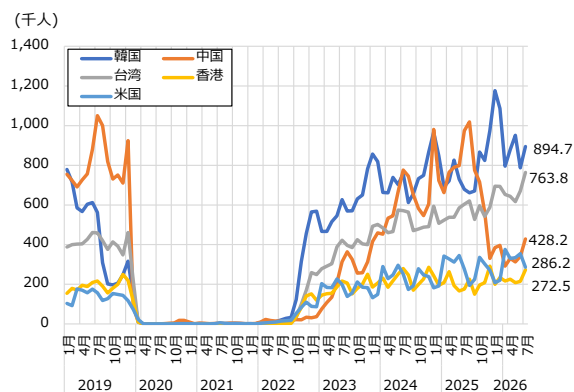


注：2024 年まで確定値、25 年及び 26 年 2-5 月は暫定値

2026 年 6-7 月は推計値

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図 2 上位 5 カ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5 の国・地域は値を表示している

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

表 1 九州ふっこう応援割の概要

対象県	予約開始日	割引対象	割引率	割引上限額	割引対象期間
福岡県	-	九州地方における 1 泊以上の旅行・宿泊商品	50%	宿泊単体商品・交通付宿泊旅行商品 1 泊：2.0万円	10/1~12/25
佐賀県	オンライン予約サイト：9/24 旅行会社：10/2	九州地方における 1 泊以上の旅行・宿泊商品	50%	交通付宿泊旅行商品 (2 泊以上)：3.0万円	10/1~12/25
長崎県	9 月第 3 週	九州地方における 1 泊以上の旅行・宿泊商品	60%	交通付宿泊旅行商品 (2 泊以上)：3.0万円	10/1~12/25
熊本県	9/15	九州地方における 1 泊以上の旅行・宿泊商品	60%	交通付宿泊旅行商品 (2 泊以上)：3.0万円	10/1~12/25
大分県	9 月下旬	九州地方における 1 泊以上の旅行・宿泊商品	50%	交通付宿泊旅行商品 (2 泊以上)：3.0万円	10/1~12/25
宮崎県	-	九州地方における 1 泊以上の旅行・宿泊商品	50%	交通付宿泊旅行商品 (2 泊以上)：3.0万円	10/1~12/25
鹿児島県	-	九州地方における 1 泊以上の旅行・宿泊商品	60%	交通付宿泊旅行商品 (2 泊以上)：3.0万円	10/1~12/25

注：2026 年 9 月 14 日時点の情報に基づいて作成している。このため、掲載している情報は今後変更される可能性があることに留意。

出所：観光庁 HP「九州ふっこう応援割」より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが 2023 年 9 月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

● 7 月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶ **関西 7 月の輸出額は**前年同月比+24.6%と **22 カ月連続の増加**、5 カ月連続で 2 桁の伸びを記録した。AI 関連需要の爆発的な拡大が続いており、半導体関連輸出が堅調。また、**輸入額は**同+29.5%と **6 カ月連続の増加**。結果、**関西の貿易収支は**+2,235 億円と **18 カ月連続の黒字**。輸入額の伸びが輸出額の伸びを上回ったこともあり、黒字幅は前年同月比-8.9%と 5 カ月ぶりに縮小した(図 3)。

▶ 対中国貿易動向をみると(図 4)、**関西 7 月の対中国輸出は**前年同月比+47.8%と **5 カ月連続で増加**した。輸出増に寄与したのは、半導体等電子部品や半導体等製造装置等であった。また、**対中国輸入は**同+20.0%と **9 カ月連続の増加**。輸入増に寄与したのは通信機や非鉄金属等。結果、対中国貿易収支は+340 億円と 2 カ月ぶりの黒字となった。サービス輸出に比して、財の対中国輸出は好調である。

▶ **7 月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は 75 万 4,609 人**であった(図 5)。前年同月比-15.6%と **8 カ月連続で減少**し、**且つ 4 カ月連続で 2 桁のマイナス**となった(前月：同-21.2%)。全国が小幅プラス(同+0.1%)となったのに対し、関空では中国人客のシェアが高いこともあり、中国人客の訪日自粛の影響が強めに出ている。また、日本人出国者数は 22 万 6,731 人であった。前年同月比-0.1%と小幅ながら 5 カ月ぶりに減少した(前月：同+5.7%)。なお、2019 年同月比では-28.8%となり、アウトバウンド需要は依然低迷している。

▶ サービス業の生産活動を示す**第 3 次産業活動指数**(季節調整済み：2019-20 年平均=100)をみれば(図 6)、**7 月**は 107.1 で前月比+0.4%と **2 カ月ぶりのプラス**となった(前月：同-0.2%)。経産省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直し傾向にある」と前月から据え置いた。また、**対面型サービス業指数***は 107.4 で同+0.8%、**2 カ月連続のプラス**(前月：同+0.1%)。うち、運輸業、郵便業(同+1.8%、2 カ月連続)や生活関連サービス業、娯楽業(同+3.7%、2 カ月ぶり)などが上昇に寄与した。7 月を 4-6 月平均と比較すると、第 3 次産業活動指数は+0.5%、対面型サービス業指数は+0.8%、それぞれ上昇した(4-6 月期：第 3 次産業活動指数：前期比+0.5%、対面型サービス業指数：同-0.3%)。

▶ 7 月の**観光関連指数****(季節調整済み：2019-20 年平均=100)は(図 6)、112.0 と前月比+4.0%上昇、前月の大幅落ち込み(同-5.2%)の反動もあり **2 カ月ぶりのプラス**となった。うち、宿泊業、飲食サービス業(同+3.4%、2 カ月ぶり)や旅客運送業(同+3.3%、3 カ月ぶり)などが上昇に寄与した。7 月の観光関連指数は 4-6 月平均比+1.0%上昇した(4-6 月期：前期比-0.9%)。

*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

**観光関連指数は第 3 次産業活動指数のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指数の加重平均。

図 3 関西 対世界貿易の推移

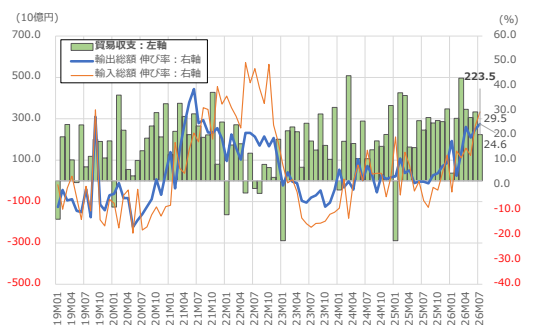
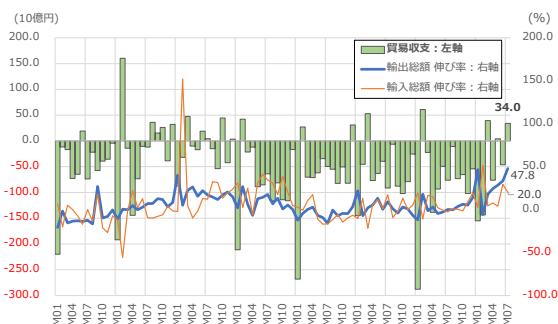
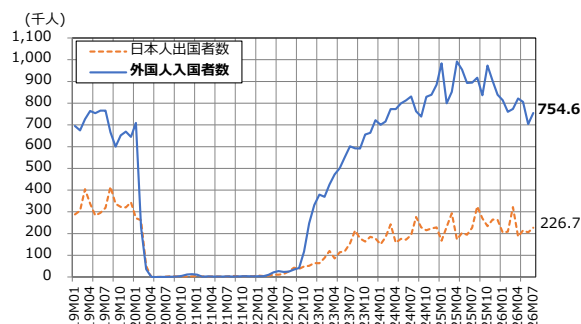


図 4 関西 対中国貿易の推移



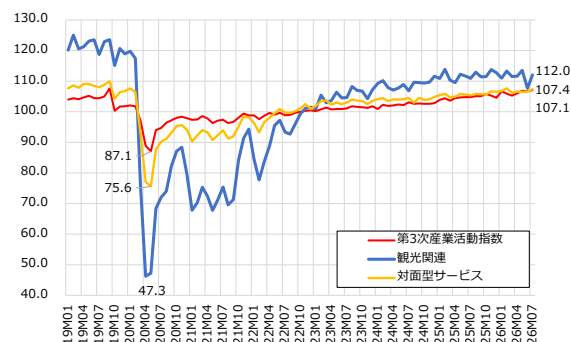
出所：『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』
より筆者作成(図 4~5)

図 5 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2026 年 7 月値は速報値

図 6 観光関連 対面型サービス 第 3 次産業：2019-20 年平均=100



出所：経済産業省「第 3 次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 5月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、5月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**11,420.5千人泊**(表2)。前年同月比-9.8%と8カ月連続の減少となった(前月：同-11.8%)。日本人、外国人いずれも宿泊者数は減少が続いており、**宿泊需要は停滞**している。

▶5月の日本人延べ宿泊者数は**7,582.1千人泊**となった。前年同月比-6.0%と8カ月連続で減少したが、減少幅は前月の同-8.5%から縮小した(表2及び図7)。府県別にみれば、大阪府2,346.5千人泊と最も多く、次いで、京都府1,357.4千人泊、兵庫県1,171.4千人泊となった。また、三重県758.2千人泊、滋賀県438.3千人泊、和歌山県400.5千人泊、福井県324.4千人泊、奈良県301.7千人泊、鳥取県265.5千人泊、徳島県218.5千人泊であった。前年同月比(-6.0%)に対する寄与度をみれば、減少に寄与したのは、大阪府(同-6.8%ポイント)、三重県(同-0.6%ポイント)、京都府(同-0.3%ポイント)等の5府県であった。

▶5月の外国人延べ宿泊者数は**3,838.3千人泊**であった(表2及び図8)。前年同月比-16.6%と11カ月連続で減少した。府県別にみれば、大阪府1,930.0千人泊、京都府1,501.7千人泊と2府への集中が続いている。また、兵庫県171.0千人泊、和歌山県82.6千人泊、奈良県39.1千人泊、三重県30.9千人泊、滋賀県29.1千人泊、徳島県21.6千人泊、鳥取県18.7千人泊、福井県13.6千人泊であった。前年同月比(-16.6%)への寄与度をみれば、京都府(同-8.0%ポイント)、大阪府(同-7.5%ポイント)、兵庫県(同-0.6%ポイント)等の7府県が外国人延べ宿泊者の減少に寄与した。京都府では7カ月連続で、大阪府では12カ月連続でそれぞれ減少が続いている。

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019年=100)をみれば、2026年7月は80.7となった。前年同月比+2.5%と2カ月連続の改善となった。夏のボーナス支給もあり、賃金上昇が6カ月連続で3%超となったことに加え、宿泊料金の伸びが縮小(6月：同+3.1%→7月：同+2.0%)したことが影響した(図9)。

図7 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

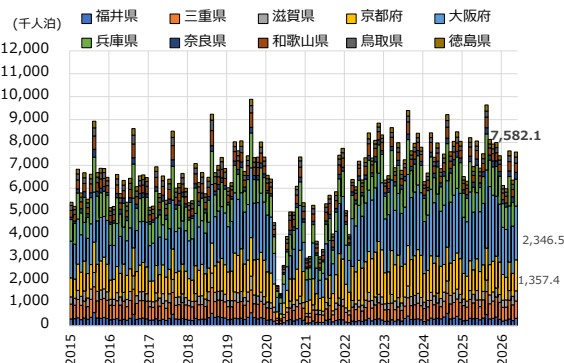


図8 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

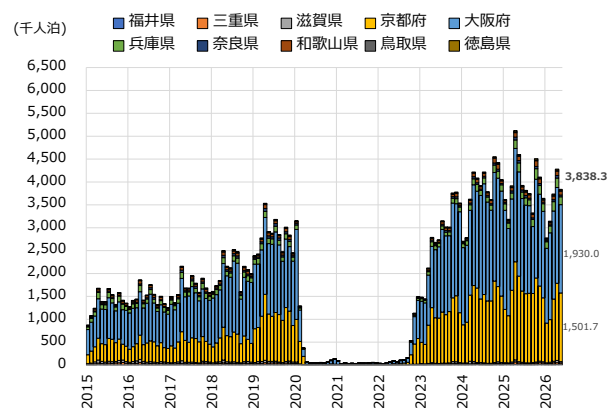
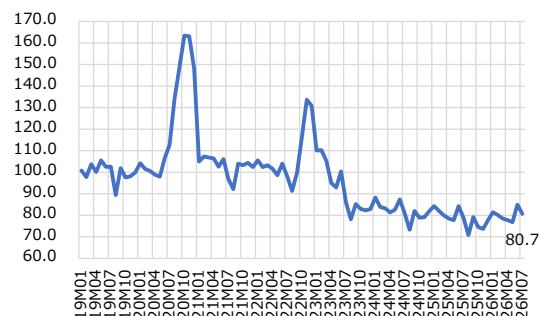


図9 宿泊料金と賃金の交易条件



注：交易条件は賃金(現金給与総額)を宿泊料金(消費者物価)で除した指数。2019年平均を100

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』より筆者作成

表2 関西 延べ宿泊者数伸び率：5月

	総数				日本人				外国人			
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	338.0	3.1	0.1	-26.4	324.4	2.3	0.1	-27.6	13.6	28.0	0.1	1.9
三重県	789.1	-6.1	-0.4	-2.1	758.2	-5.9	-0.6	0.5	30.9	-9.6	-0.1	-33.3
滋賀県	467.3	5.6	0.2	1.2	438.3	5.8	0.3	-0.4	29.1	2.5	0.0	15.1
京都府	2,859.1	-12.1	-3.1	-16.5	1,357.4	-1.9	-0.3	-6.7	1,501.7	-19.7	-8.0	-21.4
大阪府	4,276.5	-17.2	-7.0	-16.7	2,346.5	-18.8	-6.7	-18.0	1,930.0	-15.2	-7.5	-15.5
兵庫県	1,342.4	-3.4	-0.4	-2.8	1,171.4	-1.8	-0.3	-5.3	171.0	-13.0	-0.6	11.4
奈良県	340.8	4.7	0.1	7.3	301.7	10.2	0.3	12.4	39.1	-24.5	-0.3	-10.5
和歌山県	483.0	4.5	0.2	6.3	400.5	7.5	0.3	9.3	82.6	-8.0	-0.2	-2.9
鳥取県	284.2	34.0	0.6	26.1	265.5	39.7	0.9	27.6	18.7	-14.8	-0.1	11.7
徳島県	240.1	-1.3	-0.0	-11.7	218.5	-2.0	-0.1	-12.3	21.6	6.5	0.0	-7.1
関西2府8県	11,420.5	-9.8	-9.8	-11.8	7,582.1	-6.0	-6.0	-8.5	3,838.3	-16.6	-16.6	-16.4
全国	54,291.5	-2.4	-	-7.4	39,784.0	0.0	-	-5.6	14,507.5	-8.5	-	-11.1

注：表中の赤枠は寄与度が高いTOP3を示している。出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図7～8及び表1)

トピックス 3

● 2026 年 4-6 月期国内旅行消費の動向：関西 2 府 8 県*

▶観光庁によれば、**2026 年 4-6 月期関西(2 府 8 県ベース)の国内旅行消費額(速報)**は 1 兆 2,926 億円となった(表 3)。前年同期比-7.0%と **10 四半期ぶりの減少**に転じた(1-3 月期：同+7.3%)。前年に開催された**大阪・関西万博の反動減**もあり、宿泊旅行消費が消費額全体を押し下げた。

▶国内旅行消費額のうち、**4-6 月期の宿泊旅行消費額は 9,526 億円**であった(図 10 及び表 3)。**前年同期比-12.4%と 10 四半期ぶりのマイナス**(1-3 月期：同+6.1%)。府県別にみれば、大阪府 2,884 億円(同-32.5%)、京都府 1,750 億円(同-1.2%)、三重県 1,349 億円(同-7.6%)、兵庫県 1,264 億円(同-13.3%)、奈良県 625 億円(同+5.8%)、滋賀県 380 億円(同+203.5%)、和歌山県 346 億円(同-57.1%)、徳島県 336 億円(同+352.3%)、鳥取県 326 億円(同+55.4%)、福井県 267 億円(同+146.6%)であった。

▶国内旅行消費額のうち、**4-6 月期の日帰り旅行消費額は 3,400 億円**であった。**前年同期比+12.3%(1-3 月期：同+12.9%)と 5 四半期連続のプラス**となった(図 11 及び表 3)。府県別にみれば、大阪府 1,037 億円(同-28.3%)、京都府 741 億円(同+96.1%)、兵庫県 580 億円(同+38.9%)、三重県 292 億円(同+34.4%)、滋賀県 240 億円(同+129.9%)、奈良県 237 億円(同+113.7%)、福井県 111 億円(同+71.7%)、和歌山県 76 億円(同-69.6%)、徳島県 47 億円(同+113.3%)、鳥取県 39 億円(同+126.4%)であった。なお、**奈良県の日帰り消費額は過去最高値を更新した**。

*トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。

図 10 関西 2 府 8 県 宿泊旅行消費額の推移

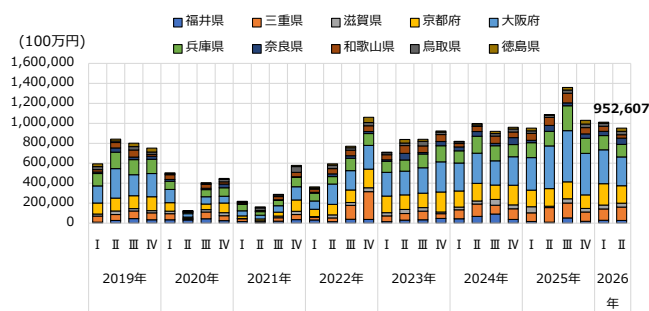
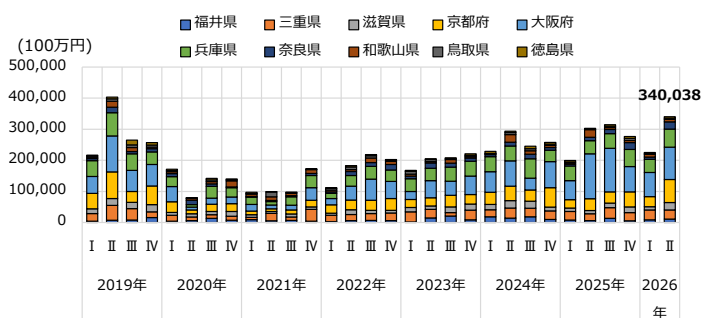


図 11 関西 2 府 8 県 日帰り旅行消費額の推移



(注) 宿泊旅行、日帰り旅行ともに、観光・レクリエーション目的以外に帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む

2025 年までは確報。26 年は速報(上図も同様)

出所:観光庁『旅行・観光消費動向調査』より筆者作成(図 10 及び 11)

表 3 関西 国内旅行消費額：2026 年 4-6 月期

	国内旅行消費額			宿泊旅行消費額			日帰り旅行消費額		
	消費額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)	消費額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)	消費額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)
福井県	37,860	118.6	47.4	26,738	146.6	65.8	11,121	71.7	8.5
三重県	164,091	-2.2	26.9	134,937	-7.6	31.4	29,154	34.4	13.1
滋賀県	61,961	170.0	-28.8	37,953	203.5	-34.1	24,008	129.9	1.3
京都府	249,124	15.9	28.0	174,981	-1.2	29.0	74,143	96.1	21.5
大阪府	392,108	-31.5	7.4	288,363	-32.5	3.8	103,745	-28.3	26.1
兵庫県	184,347	-1.7	-5.7	126,370	-13.3	-4.4	57,978	38.9	-9.8
奈良県	86,145	22.8	65.1	62,469	5.8	72.4	23,676	113.7	32.1
和歌山県	42,205	-60.0	-19.5	34,647	-57.1	-26.1	7,559	-69.6	77.0
鳥取県	36,504	60.8	13.9	32,572	55.4	13.7	3,932	126.4	15.3
徳島県	38,299	297.4	-54.2	33,578	352.3	-58.3	4,721	113.3	-31.5
関西2府8県	1,292,645	-7.0	7.3	952,607	-12.4	6.1	340,038	12.3	12.9

注：表中の赤枠は寄与度が高い TOP3 を示している

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より筆者作成

表 4 2026 年 7 月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	7月	7月		1~7月	1~7月	
総数	3,437,118	3,442,100	0.1	24,955,693	24,527,200	-1.7
総数(中国除く)	2,462,554	3,013,900	22.4	19,262,589	22,040,700	14.4
韓国	678,566	894,700	31.9	5,462,164	6,569,800	20.3
中国	974,564	428,200	-56.1	5,693,104	2,486,500	-56.3
台湾	604,177	763,800	26.4	3,888,976	4,736,000	21.8
香港	176,019	272,500	54.8	1,447,075	1,571,000	8.6
タイ	48,553	53,800	10.8	729,022	758,300	4.0
シンガポール	24,304	28,800	18.5	369,460	407,400	10.3
マレーシア	18,112	23,800	31.4	342,073	395,100	15.5
インドネシア	37,612	39,000	3.7	373,589	418,700	12.1
フィリピン	47,366	45,100	-4.8	495,481	519,500	4.8
ベトナム	53,538	52,100	-2.7	418,176	448,700	7.3
インド	18,297	20,300	10.9	189,423	230,600	21.7
豪州	50,174	49,800	-0.7	617,418	643,100	4.2
米国	277,080	286,200	3.3	1,978,507	2,107,900	6.5
カナダ	52,087	56,000	7.5	387,489	419,000	8.1
メキシコ	19,778	23,100	16.8	104,621	132,700	26.8
英国	37,098	41,500	11.9	308,140	328,200	6.5
フランス	46,196	50,700	9.7	255,927	278,000	8.6
ドイツ	28,087	29,800	6.1	230,899	247,900	7.4
イタリア	21,833	25,300	15.9	157,850	160,500	1.7
スペイン	24,056	27,900	16.0	122,317	134,000	9.6
ロシア	11,266	13,000	15.4	94,957	117,500	23.7
北欧地域	19,099	20,400	6.8	113,520	129,700	14.3
中東地域	19,993	28,200	41.0	135,783	156,400	15.2
その他	149,263	168,100	12.6	1,039,722	1,130,700	8.8

表 5 2026 年 5 月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	5月	5月		5月	5月		5月	5月		5月	5月	
総数	3,693,587	3,560,256	-3.6	3,368,573	3,245,723	-3.6	112,965	100,971	-10.6	212,049	213,562	0.7
韓国	825,883	951,328	15.2	792,153	916,303	15.7	15,256	14,730	-3.4	18,474	20,295	9.9
中国	790,089	313,123	-60.4	699,479	229,722	-67.2	26,031	18,360	-29.5	64,579	65,041	0.7
台湾	538,428	616,804	14.6	522,165	598,564	14.6	7,738	8,629	11.5	8,525	9,611	12.7
香港	193,044	207,937	7.7	188,968	203,696	7.8	2,017	2,082	3.2	2,059	2,159	4.9
タイ	108,106	98,756	-8.6	102,421	93,604	-8.6	2,426	2,285	-5.8	3,259	2,867	-12.0
シンガポール	63,257	76,558	21.0	60,565	73,709	21.7	2,239	2,318	3.5	453	531	17.2
マレーシア	51,725	72,188	39.6	48,926	69,804	42.7	1,634	1,277	-21.8	1,165	1,107	-5.0
インドネシア	52,280	56,761	8.6	37,525	40,484	7.9	1,330	1,128	-15.2	13,425	15,149	12.8
フィリピン	82,723	85,036	2.8	67,744	68,344	0.9	6,995	7,918	13.2	7,984	8,774	9.9
ベトナム	59,263	58,058	-2.0	13,923	15,602	12.1	3,148	2,921	-7.2	42,192	39,535	-6.3
インド	43,040	56,551	31.4	32,782	45,822	39.8	5,206	5,343	2.6	5,052	5,386	6.6
豪州	78,874	82,274	4.3	75,670	79,110	4.5	2,228	2,205	-1.0	976	959	-1.7
米国	311,933	333,696	7.0	296,178	317,137	7.1	10,627	10,671	0.4	5,128	5,888	14.8
カナダ	66,346	69,426	4.6	64,325	67,282	4.6	1,038	1,052	1.3	983	1,092	11.1
メキシコ	15,080	19,702	30.6	14,614	19,227	31.6	278	260	-6.5	188	215	14.4
英国	52,095	55,243	6.0	47,573	51,352	7.9	3,144	2,385	-24.1	1,378	1,506	9.3
フランス	46,049	48,491	5.3	42,184	44,551	5.6	2,153	1,930	-10.4	1,712	2,010	17.4
ドイツ	42,268	50,224	18.8	38,403	46,569	21.3	2,822	2,344	-16.9	1,043	1,311	25.7
イタリア	24,956	28,056	12.4	22,872	26,305	15.0	1,541	1,158	-24.9	543	593	9.2
ロシア	19,152	24,650	28.7	17,993	23,184	28.9	684	908	32.7	475	558	17.5
スペイン	20,799	21,946	5.5	19,651	20,975	6.7	657	590	-10.2	491	381	-22.4
中東地域	23,248	39,050	68.0	21,419	37,899	76.9	1,092	714	-34.6	737	437	-40.7
その他	184,949	194,398	5.1	141,040	156,478	10.9	12,681	9,763	-23.0	31,228	28,157	-9.8

注：目的別訪日外客数の定義については、レポート No.79 図 3 の注を参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域
出所：日本政府観光局(JNTO)、2026 年 8 月 19 日付より筆者作成(表 4~5)